

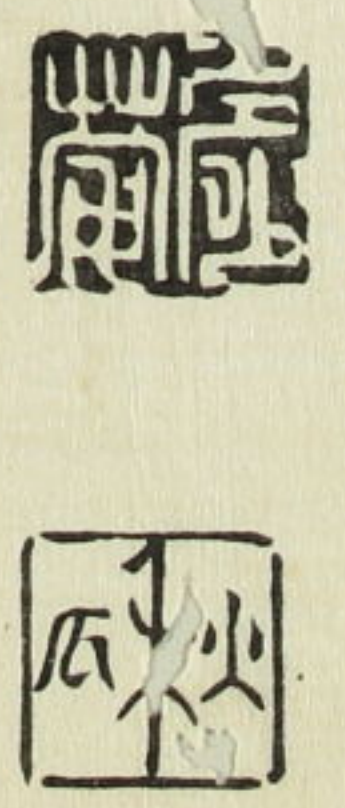
出立

結陰

瓶は招き流しあり小川の邊ふ柳菴
遊之あるものあり其家終に伊のふ
湯浅の海をわうは移りたの岸を
きく小川よりふまきく稀より古園より
ふみおのこ也其岸より眺みくは移りて
古園よりふまきく十と数くうりは移り
まきく徑よりふまきくうりは移りて

うらやまの心はさへて
あはれなるものぞ
こころのちから

あふふ年申さるる ありき



ふふのふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ

歌仙

うらやまの心はさへて
あはれなるものぞ
こころのちから
ふふのふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ

藤よりあゝに疎し神無 仙舟
 さのふふやわ刈童 仙枝
 とれとよ刈焼松茸も面ふん 仲者
 ね〜たてもいふふ〜 出で
 帆は〜れ〜の海客と 桑戸
 笈の佛名例と投与 板敷
 同此れさしふたね境し 芦桂
 資よつハ放と替ふたの海 沙路

満月ハ路の雪れね〜れ 仙枝
 踏とつれれ半信見ふり 越え
 渴く時きれれ〜落〜水 静河
 子不揺〜交ふる信 桑戸
 橋穂わらもの〜花の実物有 出で
 おかり事〜たれのおいし 仲者
 二
 是〜ハ陸中〜と云ふ 桑戸
 建て家〜い路へさし 芦桂

祖堂

松月庵住持このまゝ南紀の
素樸ついでとくさくさ
伴ふ人のあつて大和山城
跡地をてつてとくさく
臨院ふた鞋の師ふた
とくさくさくさくさく
身と遠くはる

右列のまゝとくさくさく
さくさくさくさくさく
とくさく井上の陸ふた
月ふのついでとくさく
花ふ活まゝとくさく
けふの師ふたとくさく
お女れもついでとくさく
送るはとくさくさく

たむ 龜峰 静河 妙牛 仙枝 紫戸 紫々 紅雲

至くも休む中陰を花の香 其奈
 路くくくく着ふにげき速 舊曉
 見送るや廣き空の遠く 素山
 大井川も流るるし 夕下時 平常
 草木然るをさし 春の風 岸桂
 ありきききききき 信水
 記しきききききき 藤木
 吟の味はあききき 沙路

祖師

南のふききききき 國久
 わりて東にむくきき 常陸
 町に住むきききき 子け
 もれひのきききき ちの
 是いて道すめき勝地陳記
 ても平家きききき 浦おきね
 先武江ふきききき とき

曉よりたみへまいつるを名

むれれりききし

曉くのみうらたへ曉庭は 芝六

さくさくしきぬる花の山見は 亀文

つらみあやまけを舟の山路は 葆光

ひききし一葉の月と和音の浦 可道

寒くしぬ二月の雪や曉くも 奇青

古きしきれはてふ木の名を 義松

去見れなむるや田路むしり雪 抱雪

名とくらの衣巡れや院院装 霜後

一より現こく玉はしる

二にさかり松とや見えは

多きやうきやうと十と路

ありれはしきとて遠き

ふくやうき

多山菴

いあさや舟れあつて 秋瓜

名とく

柳のゝる

蔵のふ



雪画

春之部題人月

七
子
の
あ
は
れ
さ
し
一
所

虎時梅畹折芳如榮梅

雪の懐けくし

喋くもろめえよりぬる

新をいへるすゝや若菜摘

陽子と神志をいふ名なり

夢野矢野龍溪

江戸

秋風

錦路

水戸

具朝

東川

左原

秀陽

千賀

橘鬼

鐸田

素雅

カマタ
里風

遠刃
魚日通

小川女
幾久

松月

靜河

山石根

趙畝

小幡
敵牛

水戸
文江

庄原秀至

泉文

二株

江戶
周也

鉞田補志

畫江

右山

雪解や若めりいれ、名泉

烟田 仙嵐
小川 亀峰

題柳

雪代の下り居る柳り

江戸 百重

あ系原へ人を釣る柳り

水戸 田義

神垣へ裾けく重なる柳り

小高 仙嵐

喜雨ふりてとくも柳り

柳圭

水波の習中を揺る柳り

滄浪

孤舟、低く芽をふく柳り

左原 古道

青柳や春風のそよ風

土浦 梅林

千竿に枝をけりたる柳り

鉦子 石牛

あけなへる露の柳り

鉦子 関二

浅くは春風をふく柳り

麻嶋 魚山

浅くは千々も柳り

村松 東湖

あけなへる柳り

掉雪

あけなへる柳り

市中

雨をゆくゆく吊る柳
 青柳を一つふれ釣の糸
 さゆらぐ子怪歌き柳
 柳をふらふもきく居柳
 子柳をきくもきく柳
 とれのみきくもきく柳
 柳江の橋へ登るやきく
 井の水を流す柳を
 嵐舞

鈴田

松下

安塚

生井沢

菜芹

小川

左右

遊之

孤尊

手賀

其主

題蛙

我おるし里の唐や啼き
 古池より月さへ響く
 花をきく月さへ響く
 終古池の音けり
 新しき音きく
 接しき音きく
 鳴きし音きく

遠島

木鶏

江戸

霜後

白芝

水戸

路友

南枝

小高

高卧

左原

銀江

春のふなづから啼睡り
啼る一月もずのねのつ
里の中れ水もすかき睡り
力多の流ぬ水も啼睡り
廣くふふもくそき睡り
浮くも月もくねの睡り
古井戸も水も啼睡り

題苗代

手賀 雨眠
潮来 籟如
戸村 指月
下吉野 細葉
小川 釣雪
故園
艸牛

苗代や水もくそき睡り
庭もくそき睡り
苗代や山下も水も睡り
なづから水も睡り
さけりも水も睡り
苗代や山田も水も睡り
苗代や水の中も水も睡り
苗代や水もくそき睡り

江戸 午橋
可道
奇青
羅候
水戸 里仙
土浦 東里
潮来 天遊
笠曾 青郊

市代やききくは月のふくふ
なや海や水へききく春のふ

泰 買風
飯名 五雞
手買 如遊

題し鳥

雨れくおきくのきく海
凍おくおのふくしき
風れきききくて遠入海
飛きくきききききき

江戸 這子
水戸 坡長
飛馬
治緑

一の家へおきくきききき
海板をききくきききき
遠や海明れきききき

壺崎 太鼓
小川 沙鷗
仙枝

題し鳥

おきききききききき
海をききくきききき
海をききくきききき
海をききくきききき
海をききくきききき

江戸 米珠
イセ 文橋
遠路 柳子
観々

夕、ハ眼のきふ、但し候りけ
 ま、すれ、接、移、か、し、初、め、候
 山、一、つ、ろ、れ、候、わ、ゆ、く、候、り、け
 知、る、人、よ、あ、は、せ、よ、お、き、り、き、な、る
 筆、入、乃、及、ち、あ、る、さ、う、さ、う、り、け
 湯、家、の、あ、る、さ、う、さ、う、り、け
 川、留、ふ、あ、る、さ、う、さ、う、り、け
 山、陰、の、あ、る、さ、う、さ、う、り、け
 遠、島
 文、派
 樺、石
 水、戸
 柳、糸
 長、眠
 茂、葉
 左、蝶
 求、古
 青、溪

夕、ハ眼のきふ、但し候りけ
 ま、すれ、接、移、か、し、初、め、候
 山、一、つ、ろ、れ、候、わ、ゆ、く、候、り、け
 知、る、人、よ、あ、は、せ、よ、お、き、り、き、な、る
 筆、入、乃、及、ち、あ、る、さ、う、さ、う、り、け
 湯、家、の、あ、る、さ、う、さ、う、り、け
 川、留、ふ、あ、る、さ、う、さ、う、り、け
 山、陰、の、あ、る、さ、う、さ、う、り、け
 遠、島
 文、派
 樺、石
 水、戸
 柳、糸
 長、眠
 茂、葉
 左、蝶
 求、古
 青、溪
 左、原
 氏、車
 眠、虎
 羽、月
 湖、水
 東、湖
 滄、江
 和、水
 汶、水

咲つらん少枝をひきし機り
ふやれ中へきやういふらん
酒歌やまゐるふせりやう機
き風ふきのきやういふらん
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

頼ふふふふ

終る啼く山をよめる五段
き山の如ふふふふふふ

小幡

鳳吹

外川

吟水

手賀

仙里

小川

蘭戸

伊勢

仲吾

伊勢

桃溪

江戸

乙河

江戸

都之

水戸

柳沢

左原

百起

外川

具紫

池田

松坡

小川

巻之

馬曉

松戸

長布



くまのこや

と朝や

あちち

岸ふん

麦林渡

夏之部顯子規

明まや	や	里	お	も	あ	は	い	は	の	月
深	い	ぬ	る	海	へ	名	あ	や	郎	と
梅	と	れ	さ	る	ん	と	し	や	あ	は
舞	を	と	海	の	花	や	ほ	も	あ	は
被	ひ	ら	る	ん	は	顔	や	ほ	も	あ
旅	人	の	道	は	戸	は	や	と	親	
明	る	海	る	へ	海	さ	れ	海	合	を

霜	後	柳	渚	梅	林	風	吹	雨	眠	如	遊	青	淵
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

明く物もつゝねをちり
 卯のそふもくもく部
 愛子見くもくもく部
 松えへもくもくもく部
 ちもくもくもくもく部
 一都もくもくもくもく部
 ちのちもくもくもく部
 卯のそふもくもく部

掉雪
 田義
 文派
 路友
 東湖
 南枝
 冰鷗
 松下

卯のそふ

卯のそふもくもく部
 ちもくもくもくもく部
 一都もくもくもくもく部
 ちのちもくもくもく部
 卯のそふもくもく部
 愛子見くもくもく部
 松えへもくもくもく部
 ちもくもくもくもく部
 一都もくもくもくもく部
 ちのちもくもくもく部
 卯のそふもくもく部

二
 葉
 左
 百
 飲
 馬
 仙

ぬの衣や一ふくきふふふ
 指月
 くのそれや垣くくくく
 滄浪
 卯此衣や袖くくくく
 眠虎
 卯の華や咲き馬のくく
 這子

題初菰子

初菰子ふくくくの服を
 し河
 知くく都へふくくく
 吟水
 花はくくくくくく
 太鼓

紫がくくくくく初菰子
 趙欽
 初菰子ふくくくく
 錦路
 例ふくくくく初菰子
 左右
 一口くくく初菰子
 松月
 かくくく初菰子
 汶水
 初菰子ふくくく
 龜峰
 石其くくく初菰子
 馬曉

題初菰子

雨にふ柱のまゝ生 蝸牛

青郊

いさひもれ初く地を這ふ

細葉

此をれ戸や錠のあやに這ふ

仙氣

堀より木にけりて京へいふ

泉丈

祈禱を授けりてや這ふ

仙枝

鳴くさへ乾ぬほゝや這ふ

画江

題五月雨

五月雨や流るる流るる

橋見

軍の空を晴間やうつさる

具奈

さうと雨や雫の浮きけをさる

沾緑

さうと水の流るるや五月雨

木鶏

かき川も流るるをさる五月雨

古道

あまのこゝろをさる五月雨

求古

改まらざるをさる五月雨

天遊

さうと雨や雲をさる五月雨

東里

此を流るるをさる五月雨

瀨如

こころや望み茂きと 燕舎
 五月のや庭の梅よりほかに 柳子
 晴れぬ空にふくむや五月雨 諍河
 五月のや梢のさくらも雲の中 奥山
 花を散らしゆくわが五月雨 葵園

題夕白

夕やあや藤のあやまけし 可道
 月やふくや藤きくまの庭 横石

夕影や一夜さくものやう密 朴志
 月やふくや藤きくまの庭 雛候
 月やふくや藤きくまの庭 秋瓜
 由りし藤やふくまの庭 奇青
 夕影や風をさくまの庭 百童
 昔ふくや藤きくまの庭 白芝
 夕影やまきくまの庭 午橋
 月やふくや藤きくまの庭 東川

リ白やいさうの他い遠入
 長布
 月あふの月あふの月あふの月
 具朝
 月あふの月あふの月あふの月
 高臥
 月あふの月あふの月あふの月
 民車
 月あふの月あふの月あふの月
 杏陽
 月あふの月あふの月あふの月
 羽月
 月あふの月あふの月あふの月
 秀至
 月あふの月あふの月あふの月
 松坡

リ白や馬よあふの月あふの月
 右山
 月あふの月あふの月あふの月
 長眠
 月あふの月あふの月あふの月
 市中
 月あふの月あふの月あふの月
 嵐鬘
 月あふの月あふの月あふの月
 仙里
 月あふの月あふの月あふの月
 柳系
 月あふの月あふの月あふの月
 和水

湖へさるるぬれぬや中の峰
 三日月に西に映るや中峰
 見ふ中子育ふあふのさ
 山の雪うさぎやうさぎ
 むさう甲はさくらあふの峰
 湖へ映るあけくら雲の峰
 西渡りの舟りるさし中峰
 あれ中へ泊る馬り雲のさ
 石牛
 銀江
 湖水
 滄江
 文江
 五鶏
 鉤雪
 孤鳶

巖へは筑波か他へ雲の峰
 りあふるささあふのさ
 崩れを似るも見れあふの峰
 吹くささあふのさ
 鳥さへあふのさ
 蔽牛
 坡長
 朱珠
 都之
 周也

題納涼

すし水や望みをおく水のさ
 涼さや柳をさるる水のさ
 里仙
 魯通



柳居雙

新刊

時人

ものごとく

三

25

秋之部題立煉

松風の聲——まけぬと朝の秋
 煙をよみけの音こゝろの松
 目くらめしきふれりふきと朝露
 柳の葉をさるるをわらふの歌
 秋のや酒さるるをわらふの歌
 投ふの松葉をわらふの歌
 秋のや酒さるるをわらふの歌

白雲
 滄浪
 し河
 吟水
 霖二
 其主
 卷之

浮世れちあれくもやと朝の好 橋兒
 とのあふや画の具れと如きま 湖水
 おきりや落き一風の動や油 里風
 ちや戸のむりて明きま 娘瓜
 起一たる色葉のきやと朝の秋 米珠
 一也と朝の春きやと朝のあふ 都之

題七

七さるるきくくくくやけ 治緑

七々やふふふふふふふ 南枝
 一ふふふふふふふふふ 左右
 七々や秋の綿の織けく 柳子
 みねふし人のきやふふのふ 田義
 人ふふふふふふふふふ 百起
 七々やふふふふふふふ 松下
 川ふふふふふふふふ 求古
 手向ふふふふふふふ 沙鷗

題字は雁

ともし木を見えぬ雪のうら	雪
暖れ耳をうらうううう	柳
旅人を雪へまゐるうら	古道
まのうらうううううう	秀陽
左のうらうううううう	木鶏
右のうらうううううう	眠虎
是のうらうううううう	東里

啼くうらうううううう	里仙
鳴くうらうううううう	仲吾
舞ううらうううううう	亀峰
舞ううらうううううう	百童
舞ううらうううううう	奇青

題鶏頭

うらうううううううう	雨眠
うらうううううううう	名山

静河	霜後	枯友	長眠	柙圭	細糸	嵐髻	如遊
新乃やまのくさすいさ作り	けしや千種をまけくねる	新頭やいりて教へるまじ	ふさね連なり長し新糸	新ひやまゆふてのふらぬ	常於のまきと肩より新鼓	けしやまきり他る葉のま	

幾久	可道	難催
甲ふふし静まりちる新糸	新糸や静まりたふ糸の法	音晴く庭のあはし新花

正月

紋水	朴志	鳥曉	菰園
名月やいりてふさふれ花	明月や啼きお山の前	口角をいりて猫やふり月	名月や船中もけり花の

あけつては住るもよみ分るが 天遊
 かしきまを空の雪しきまを 孤島
 華ふあけくもく月久し 牛橋
 山内と空を何なわ月と雪 波長
 都より雪字を有する月 羽月
 月より浪を有する 滄江
 名月やふくまふを沙の岸 周也
 明月や二重あふ 二株

明月や砂拂く庭に雪の音 石牛
 明月や人の聲をわく 文江
 名月やはくはくはの垣端 松坡
 船く見ふ雪く釣をきく 遊之
 名月やまをまきく虫の聲 観之
 紫れとよあしきくはく雪の月 茂榮
 名月や周く 氏車
 名月やふくはくはく雪の月 浪江

端近へ客を伴ふ月々々
向のふ高よりあつて月見に
栞れうらな座の静かな月
ふ所も咲く綿やうな月

梅林
風吹
松月
綿路

ひまわりくま

芭城 良長の友やきりくま
おとあふふさのそやきりくま
のり淋し住まふ居るあふ

青淵
玉葉
東湖

中市れはの月長きりくま
睡降以やさうくまきりくま
つれなきとむくの泣け睡降
月さう月さうくまきりくま
とやまふくくまきりくま
初小座くま相合あつてきりくま
きりくまきりくまや里宿の床のくま
こー戸尔風をさうくま

左蝶
文派
枕溪
指月
東川
遠子
燕舎
仙里

頭うきくさのふりまきしるま
あゝ生葉風見の柳もや
待たれぬあゝさうくし

牡丹
仙枝
五難

題夜寒

いんまゝの川原の寺にわさひ
原根ふさふさの舟の影も
まゝと軒下月桂の影も
まのまゝ静かな夜寒

賞風
仙胤
其朝
和水

掃もまゝと柳を押しつゝ
まゝのふさふさの舟の影も
情もまゝと柳の影も
角力取のちとてまゝ
江山の舟もまゝ
目のまゝと柳の影も

魯通
太瓢
画江
鉤雪
魚山
蘭戸
簾如

須きねい

渾月をさへんはききあはれ	つるはしをへる侍をききあはれ	子々をききあはれ侍をききあはれ	踏まへる侍をききあはれ	けしきをききあはれ侍をききあはれ	ききあはれ侍をききあはれ	物ききあはれ侍をききあはれ	象をききあはれ侍をききあはれ
趙歌	敵牛	仙氣	押糸	市中	素稚	長布	機石

一白をききあはれ侍をききあはれ	九をききあはれ侍をききあはれ	文をききあはれ侍をききあはれ	唐をききあはれ侍をききあはれ	唐をききあはれ侍をききあはれ	唐をききあはれ侍をききあはれ	唐をききあはれ侍をききあはれ	唐をききあはれ侍をききあはれ
文機	船馬	高外	泉大	東湖	青郊	菜芥	秀至

音

音

九

太玄波



左智

周也

籟如

滄江

民車

霜後

泊綠

幸端へ換ふ時りーとれ
 瑞雪此底をたのむ時分の終
 以法とるいふ活をねとる
 常ふ帆を止すく矢場の時分
 柳主
 古道
 掉雪
 柶子

題大根引

郭への身も芳自惚やち根引
 許さくえ從いふ立ち根引
 力量の如武者あり大根引
 天遊
 鉤雪
 仙枝

特垣れ中をあるまち根引
 石のふれとるくみ威や大根引
 瘦るまきし小路や大根引
 川又のよふきとある大根引
 時中く治へるやち根引
 孫むこち得へるくち根引
 洲さやあまのねとれ大根引
 土穴へあまれまやち根引
 機石
 滄浪
 東里
 風吹
 如遊
 午橋
 北溪
 嵐簪

初らんやわづれ力やち報り
只公まこれ共や大根り
百記 魚通

題を考

おはれ止へて二好に
おはれや雲降やと月と光
都之
おはれや風や浪のま
東湖
おはれや月や雲や
仙里

おはれや海を抜く水の化
泉文
おはれやあま海へて
高臥
おはれやあま海へて
茂葉
おはれやあま海へて
銀江
おはれやあま海へて
具朝

題を考

おはれやあま海へて
魚山

洋行を以て此を以て其の爲に
 坐す所の可くも此の爲に
 瘦馬の如くも此の爲に
 僧に似て干菜に似たり此の爲に
 内陳の燦取りし此の爲に
 常らしむる此の爲に
 噓りて此の爲に
 いふ女に似たり此の爲に

遊之
 蘭戸
 夢園
 仲吾
 朴志
 白芝
 長眠
 櫛児

遊之 蘭戶 夢園 仲吾 朴志 白芝 長眠 樗兒

乃一ひくを流生也非の留也
常發を本を留を常を也非育
雪をさへ多留を非の留
心大に風を向を非の留
我流を洋を常を也非の留
就の可くも非の留
本如くの本を非の留
このしの本を非の留
羽月
東湖
里風
文櫻
具圭
長布
孤寫
觀之

羽月 東湖 里風 文櫻 具圭 長布 孤寫 觀之

太瓢 湖水 東山 坡長 馬曉 五雞

素雅 細糸 龜峰 叩牛 卷之 榮芹 仙胤 可道

空梅や泥を、ゆきしらけくろ
 車梅やきくこゑぬ風の音
 空ふり咲く句やあめの梅
 空梅やわな夜に雪け膝氣
 しと見えぬ隠者の体やあめの梅
 寒く梅や潮見おと雪の中
 空梅や雪を、かきくはまき蒼
 貫りけりて花がくくわあめの梅
 這子
 し河
 錦路
 木離
 蔽生
 雨賦
 幾久
 買風

寒梅や空の清へきく同く見え
 空梅や五燈あるまゝ咲所
 春梅や里へ白ひのけりそす
 梢のきく春を、ささやあめの梅
 折空の志よりまきやあめの梅
 下まに水仙もわきあめの梅
 市中
 南枝
 柳糸
 秀至
 二株
 吟水

類編片々集
 西の月のかゝり御さ
 文江

川きく流るる水や御くま
 駒ふきふ御くまを御くま
 夕日乃果しきやうくま
 俗のくまを女房の御くま
 空際くまの御くま
 文くまの御くま
 心浪きく御くま
 夢くまの御くま

青郊
 関之
 松坡
 汶水
 米珠
 路友
 左蝶
 仙氣

酒寛とくまの御くま
 面ふく佛の御くま
 きくく御くま
 暗甲くまの御くま
 夜半くまの御くま
 夜半くまの御くま
 夜半くまの御くま
 夜半くまの御くま
 夜半くまの御くま

静河
 難候
 百童
 文沁
 取馬
 和永
 青洲
 田義

題歲尾

飢舟一人をさや一年の浪
 曰賣ふ雪わけをくひの市
 雪見せくた松の雪を井鏡
 餅ふや外の花をさ雪の花
 喰後山を鑑ちやたきり
 枯草をさ風をさ雪見は
 川年や歌をも雪ふたの波

后子
 趙水
 松下
 名山
 秀陽
 眠虎
 梅樹

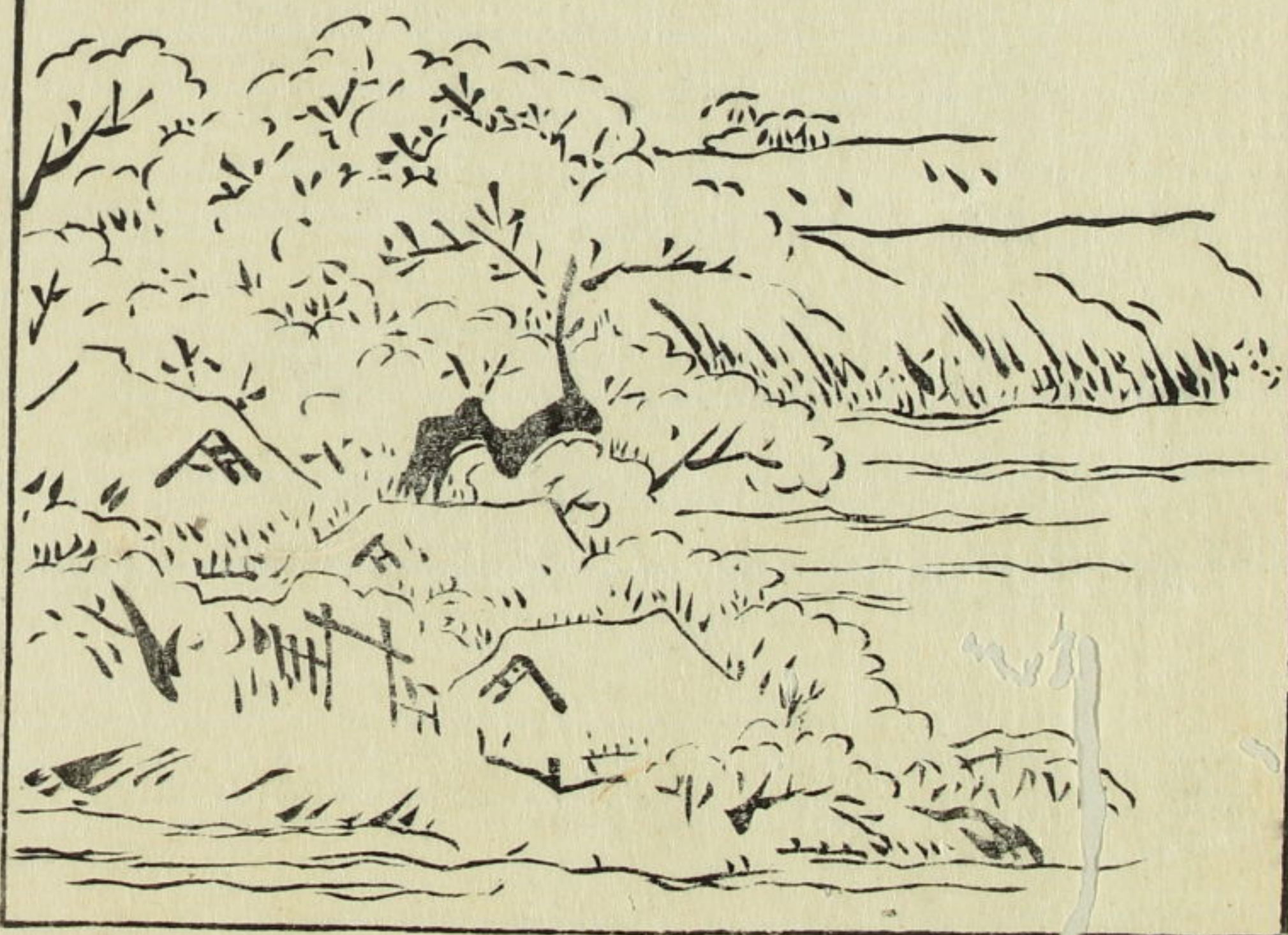
鷗心公

雪将

ゆき

しる

丁田川



附録 四季混雜

雪のふれ 雪さへ 雪の

雪

お雪のふれ 雪さへ 雪の

東志

幸崎ふれ 雪のふれ 雪の

自来

古雪のふれ 雪のふれ 雪の

柳江

雪のふれ 雪のふれ 雪の

吳船

川雪のふれ 雪のふれ 雪の

龜文

山雪のふれ 雪のふれ 雪の

芝六

東よりやうも暮るや水仙	冬川
まふれふやうも暮るや水仙	菊
卯も咲くやうも暮るや水仙	野
なごきやうも暮るや水仙	雨
紫さうも暮るや水仙	百成
冬よりやうも暮るや水仙	義松
一むらうも暮るや水仙	原光
鶯のさうも暮るや水仙	抱雪

帆をひくやうも暮るや水仙	波静
まゝ梅ぬきやうも暮るや水仙	寄山
梅へまゝ人の下りやうも暮るや水仙	貞花
筑波梅をひくやうも暮るや水仙	玄冬
緑の梅をひくやうも暮るや水仙	白桐
梅もをひくやうも暮るや水仙	呂詠
冬より梅をひくやうも暮るや水仙	石芝
所より梅をひくやうも暮るや水仙	斗南

此の月を夏の目や床の影	里蟹
泉の内に流れ渡りやと朝の解	子瓜
け世のうつらひ佛や新そと	柙文
一輪ふたきれ枝や節ふ	何ぞ
かゝるへ泉のえし年路	露恥
降るの雫さうは雲の雪	千泉

太無山人

花のうつらひれあつしそと
 此の事なつこいそい
 ちとちとあつて笑おつ時
 よと人の昔ふまそと
 むとのやうにちとちと
 まの東蔵の入口に
 横見ふちとちと

ふみかく所一見の夕く
きいつきれうあわ
はふとふ文通の所
おりの風やうが
時見披ふとまきう道
これやうまきう
知さうなるハ幸ハ某の
後尔校——新師乃

新を印くれ

李月菴

花う



